

<常設展「していみゆーで発見！岡山の魅力！」関連企画>

2026年2月14日（土）



岡山シティミュージアム 開館20周年記念  
上映会 シリーズ 映像で振り返る  
岡山の「昭和100年」第8回



令和8（2026）年は、1926年12月25日に昭和天皇が即位し「昭和」が始まってちょうど100年になります。岡山シティミュージアムでは昨年9月から10回シリーズの上映会「映像で振り返る岡山の『昭和100年』」を開催。当館が制作・発掘・収集した、地域に根ざした映像作品群を上映し、岡山市の「昭和」「平成」「令和」の三つの時代、100年にわたる歴史を振り返ります。

第8回は「地域で支える故郷の祭り」。北前船の交易で栄えた港町で生まれ町衆の手で時代を越え受け継がれた“裸祭り”西大寺会陽。平成生まれですが、30回を数えすっかり定着した「おかやま桃太郎まつり」のうらじや踊り。上映会「昭和100年」今回は岡山市を代表する二つの祭りに注目します。

第8回上映会「地域で支える故郷の祭り」

開催日：令和8(2026)年2月14日(土)

会場：岡山シティミュージアム 4階講義室

開場：13:30 開演：14:00 終了予定：15:30 の見込み

\* 参加無料。定員 70名。(予約優先)電話でお申し込みください。

受付開始：令和8(2026)年1月22日(木)10:00～

主催：岡山シティミュージアム

〒700-0024 岡山市北区駅元町15-1 リットシティビル南棟4階・5階

申し込み・問い合わせ用電話：086-898-3000(10:00～18:00、休館日を除く)

令和 8 (2026) 年の西大寺会陽は翌週、2月 21 日 (土)  
西大寺へ行く前に上映会に参加して  
会陽をもっと深く知ろう！！

<上映予定の映像作品>

■ 「探訪『西大寺会陽』～記録編～」



企画・制作 岡山市/山陽映画株式会社

完成 平成 16 (2004) 年度

長さ 26 分 56 秒

\* 平成 15 年 (2003 年) 2 月 16 日の会陽  
を撮影したものです。

(内容) “裸祭り”として知られ、国の重要無形民俗文化財に指定されている西大寺観音院の会陽は、修正会しゆしょうえという仏教の宗教行事から生まれました。この作品は、会陽の歴史、1月末の事始めから 2 月末の後祭りまで会陽前後の 1 か月にわたる様々な行事、会陽当日の激しい宝木争奪戦と宝木検分など、日本三大奇祭の一つといわれる西大寺会陽全体の流れを丁寧にわかりやすく解説しています。会陽の歴史と伝統、熱気と迫力に映像で迫った作品です。

■ 「西大寺会陽 町衆が支えてきた裸祭り」



企画 岡山市

制作 山陽映画株式会社

完成 平成 17 (2005) 年

長さ 23 分 45 秒

\* 平成 15 年 (2003 年) 2 月 16 日の会陽  
を撮影したものです。

(内容) 会陽の夜は、数千人の裸の男たちが参加し、観客を入れると数万人が西大寺観音院に集まるといわれます。冬の一大イベントを裏方として支えるのは“町衆”と呼ばれる地元の人たちです。祭りの運営にあたる西大寺会陽奉賛会の人たち、長年暴力追放に取り組んできた商店街の人たち、外来の参加者や見物の人たちに着替えの宿やふるまいの料理や飲み物を接待する人たちなど、会陽を支える“裏方”たちの奮闘を描きます。

■「温羅から“うらじや”へ おかやま桃太郎まつりの今と昔」



企画・制作 岡山市デジタルミュージアム

完成 平成 22(2010) 年 11 月 21 日

再編集 令和 8(2026) 年 2 月 14 日

長さ 11 分 4 秒

(内容) 大和から派遣された吉備津彦命と戦った“鬼”的温羅になりきって岡山っ子が躍動するうらじや踊り。昨年 30 回を数えた「おかやま桃太郎まつり」

のメインイベントとして岡山を代表する夏の風物詩になりました。その運営は多くのボランティアが支えます。作品では、岡山市出身の民俗学者 加原奈穂子さんが、戦後始まった「春の岡山まつり」が 21 世紀に「おかやま桃太郎まつり」へと発展し、うらじや踊りが祭りの中心となるまでの歴史をわかりやすく解説。また、祭りとうらじや踊りの発展に尽くした二人のキーパーソンが祭りと踊りへの思いを熱く語ります。